

創業二十周年を迎える 国鉄ディーゼルの指定を受ける

昭和二十五年（一九五〇）、二十八年（一九五三）の二回にわたり、通産省優良自動車部品認定協議会で

A級の認定（第二六五号、第三二二号）を受け、当社の品質が高く評価された。

次いで、三十年（一九五五）に国鉄ディーゼル車両について、その品質が認められ純正部品として指定を受けた。

当社は戦時中に船舶用ディーゼルのガasketを手掛け、満州国へ輸出したことがあり、ディーゼル用ガasketについては、すでに対応できる技術をもっていた。

国鉄ディーゼル車両の純正部品として指定をうけたのも、そうした技術の土壌があったからである。

昭和二十七〜二十八年（一九五二〜五三）ごろから、国鉄は動力を石炭から重油へ転換、ディーゼル化を目指していた。ちょうど国をあげてエネルギーを石炭から石油へ転換を図る時代と軌を一にしている。

そうした二十九年（一九五四）東京・日比谷公園で、第一回全日本自動車ショーが開催された。自動車工業会、日本小型自動車工業会、日本自動車車体工業会、自動車部品工業会が主催する、業界だけでなく、広く消費者に呼びかける本格的なショーであった。

当社は、この第一回ショーにガasketを出展した。これを国鉄技術者が目にとめ、直接、当社へ問い合わせがあった。その結果、試作がOKとなった。

当時、国鉄車両のディーゼルエンジンは、国鉄技術研究所が中心になり、新潟鉄工所、振興造機（現神鋼造機）、ダイハツ工業の三社が協力して開発に取り組んでいた。従って、国鉄の御墨付をいただいたとあって、発注は上記の三社から頂くようになった。

ガasketの中でも、特にディーゼルのそれは高度の技術を要する、当社は、この国鉄車両ディーゼルの受注によって、その技術に一段と磨きをかけ、ディーゼル・カー用ガasketの地盤を確立することになる。

なお、国鉄車両ディーゼルは、百八十馬力から始まり、三百七十馬力、五百馬力、一千馬力とパワーアップされ、三十六年（一九六一）から、東北本線の花形特急“はつかり”に搭載された。



創立20周年記念第1回社員慰安旅行・伊豆長岡（S27年5月25日）